

第 34 号

令和三年三月十九日発行
松山中央高校家庭クラブ



「昭和」をぶっ潰せ

校長 上田 敏博



令和二年度は、中国武漢発の新型コロナウイルスのために、日本のみならず世界中が蹂躪（じゅうりん）された一年となりました。すったもんだの末に、東京オリンピックも延期されています。

その中で、高齢の政治家が、「女性のいる会議は長くなる」と発言して響（ひび）（ひんしゆく）を買いました。しかし、「めんどくさい」会議にする者は男にもたくさんいます。もっとも、会議は議論の場なので、「めんどくさい」会議や「発言が多い」会議の方が、会議として機能したことを意味します。おそらく昭和を生き抜いた政治家にとって、会議そのものの定義が、令和を生きる私たちと、少し異なっているのかもしれない。

通用しなくなっている昭和の常識は、他にもあります。「夫は外で働き、妻は専業主婦をする」ことが日本の伝統的な家族であり、その役割分担が崩れると「家族崩壊」につながると主張される方もおられます。しかし、もしそうであれば共稼ぎの両親を持ち、運動会に一度も来てもらったことのない昭和生まれの私は、崩壊家族の中で育ったことになりません。私は専業主婦を選ばなかった母と、それを支えた父を、昔も今も尊敬しています。

そもそも、専業主婦は第一次世界大戦後の好景気で「会社」や「工場」が増えたことで初めて生まれた家族形態だと、ある興味深い本に書かれていました。

『絶対に挫折しない日本史』古市憲寿著の11章。それによると、当時、農業従事者が圧倒的に多かった日本は、夫が「サラリーマン」で妻が「専業主婦」になれたのは、一部の特権階級の人々だけだったそうです。そういえば一九六〇年代、お笑いバンド「クレージーキャッツ」の植木等さんが、「サラリーマンは、気楽な稼業ときたもんだ」と「ドント節」で歌って大ヒットしました。もちろんアイロニーですが「サラリーマン」への憧れがなければ、皮肉にもなりません。つまり、伝統的家族形態であるという認識は、完全に事実誤認なのだそうです。なお、女性労働力率は、高度経済成長期が終焉を迎える一九七五年まで低下し続けたそうです。

さて令和の今、人口減少期に入った日本にとって、労働人口の減少は経済的衰退を意味します。したがって女性の社会進出は、これからの日本にとって男女ともに最重要テーマのはずです。

しかし、制度が整っていません。令和の現在、子供を産み育てるという機能は、家族にとって必ずしも必須ではありません。しかし、重要な一機能であることには違いないでしょう。ところが現実には、公務員でさえ安心して出産・子育てを選べない環境にはないのです。これは隠（かく）れいさされた女性差別にほかなりません。そして改善されない理由は、「専業主婦」への憧れと、問題意識の欠如にあると私は考えています。家庭も社

会も、互いに尊敬し合えるリベラルなパートナーシップが基盤であるべきです。家長制が起源の戸籍もはや限界と思われ、マイナンバーに反対する人を、私は理解できません。

ワーク・ライフ・バランスを令和に合ったものに、早く切り替える必要があります。それは、男女同権が当然で、尊敬できる人は性別を問わないことが常識である皆さんの肩にかかっています。私たち昭和世代は、解消できませんでしたが、深い悔恨と、皆さんへのエールで、文を閉じさせていただきます。

会長挨拶

二年九組 清家 遥菜

今年度の家庭クラブ活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で思う通りに実施することができませんでした。しかし、数少ない活動を少しでも充実したものにしようとするので、思い出に残る活動にすることができたと思います。

私が家庭クラブの会長になったきっかけは、一年生の時に家庭クラブの活動に参加し、自分が体験し感じた活動の良さをもっと多くのの人に知ってもらいたいと思ったからです。また、会長という役割に就くことで得られるスキルを身に付けたいと思ったからです。会長になってからは、講習会の案をまとめたり、交流会で挨拶をしたり、責任感を常に必要とされ、大変だと思ふ時期もありました。しかし、一つ一つ実践していくことで、達成感を味わうことができました。また、他校との交流会ではコミュニケーションの取り方を学ぶことができ、さらに私

令和二年度役員紹介



- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 後列右から | 田中 結衣 | 前列右から | 浅野 未唯 |
| 会計 | 澄川 千夏 | 書記 | 中川 優奈 |
| 監査 | 清家 彩音 | 会長 | 清家 遥菜 |
| 監査 | 山崎まりあ | 副会長 | 渡部 果世 |
| | | 書記 | 武田 華乃 |

たちとは異なるアイデアや思考に触れることができず、皆さんの人と交流することの大切さを知ることができたのは家庭クラブ活動のおかげです。今年度は例年通りの活動をするのができませんでしたが、コロナ禍だからこそ、いつもとは異なった活動ができ、より一層心に残るものになったと思っと思っています。この経験を今後にも生かし、ネガティブをポジティブにとらえる思考を大切にしながら成長していきたいです。

来年度の家庭クラブ活動は、今年度よりもっとたくさんの方の活動を行うことができるはずです。楽しく参加でき、自身を大きく成長させることができるので、多くの人に興味をもって参加していただけると幸いです。



松山聾学校との交流会

一年二組 清家 彩音

私は聾学校の方との交流は一度も体験したことがなく、聾学校がどんな学校で、どのようなことをしているのかなど何も知りませんでした。うまく会話ができれば不安で、少し怖いという感情もありました。事前に手話の練習をしたときも、手話のプリントを受け取って、その種類の多さに驚きました。自分の名前を覚えることだけで精一杯でした。

たくさんの不安を抱えたまま当日を迎えましたが、私が不安に思っていたことを聾学校の生徒さんは一瞬で消し去ってくれました。私は聾学校の生徒二人と交流しました。自己紹介をしているときは、一人一人の目を見て笑顔で反応してくれて、私まで自然と笑顔になれました。お互いにいろいろな質問して、難しい手話でなくても、簡単なジェスチャーや表情で表したり、文字で伝えたりと、工夫して会話するのが楽しく、とても良い時間でした。話していく中で分かったのは、私たちと同じような学校生活を送っていることです。テストがあったり、修学旅行があったり、受験があったり、私たちと同じなのだと思います。将来の夢の話をしてくれた時、たくさん苦労することがある中でも夢に向かって進んでいるのを聞いて、私も頑張ろうと思いました。

私は交流会の日、聾学校の人たちの優しさと明るさに助けられました。そして私にできることは困っている人がいたら声をかけ、頼ってもらえる人になることかなと思います。障がいのある方も寄り添える優しさを忘れず過ごしたいです。交流会に参加できて良かったです。



二年九組 渡部 果世

私は初めて聴覚に障がいを持つ高校生と関わりました。私はこの会に参加する前、どのようにして会話を広げようかとずっと悩んでいました。しかし実際は全然違っていました。聾学校の生徒さんは、私がした質問に笑顔で答えてくれ、会話を広げてくれました。その時、私は普通に友達と話している感覚でした。

私は、この経験を通して一つ大きなことを学ぶことができました。それは人が会話を手段は言葉だけではないということ。私はこの時の会話で「表情」が一番に見ていました。聾学校の生徒さんは言葉や筆談で話すより前に、顔の表情で一番に自分の考えていることや思っていることについて伝えてくれるように感じました。さらに、私たちより表情が豊かだと思いました。そのような様子から会話に大切なものは、言葉で話すこと以上に表情で相手に伝えることではないかと思いました。そして私たちはまだ表情という会話の手段を上手に使いこなせていないと感じました。

私はこの交流会以降、障がいに対して

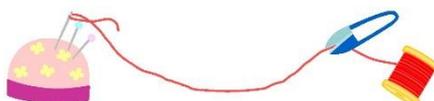
の考え方が変わりました。正直、交流会に参加する前は耳が聞こえなくてかわいそうという気持ちがありました。今は耳が聞こえないことも一つの個性と感じています。私やクラスの友達が一人一人違う個性を持っているように、人の数だけ様々な個性があります。一人一人の個性について知り、もつといろいろな人と関わりたいと思いました。

三校交流会

二年八組 武田 華乃

松山工業高校・松山南高校との三校の家庭クラブ役員が集まり、エコバッグを作りました。たくさんの種類の柄の布が用意されていて、選ぶ段階からワクワクしました。各校一人ずつの三人班だったので最初は緊張して何も話せませんでした。が、同じ班の人が積極的に話しかけてくれたので、自分からも話しかけやすかったです。松山工業高校のミシンは、普段学校で使っているミシンと違っていたので、慣れるまでに時間がかかりました。また、エコバッグの作り方のプリントだけ見ると、とても難しそうでした。しかし、先生方や班の人に聞いて教えてもらったり、話したりしながら作ると、思ったほど難しくありませんでした。最初に質問するときは抵抗があり、ためらってしまっただけで、誰に聞いても優しく教えてくれてうれしかったです。校内の家庭クラブ活動では、すでに知っている生徒や先生との交流なので、人に質問したり話しかけたりするのに緊張したりすることはなかったです。初めて会った人と班を組んで作品を作ることは新鮮でした。最近ではコンビニやスーパーのレジ袋が有料になり、エコバッグを使う機会が増えたように思います。自分で作ったものとなると愛着もわき使いたくなくな

るので、エコバッグが作れてよかったです。今回の三校交流会で他校の生徒と作品を作ることで、授業や校内の家庭クラブ活動とは違う楽しさを味わうことができ、良い経験になりました。



講習会

ブックカバー作り

一年四組 山崎 まりあ

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で料理講習会がなかなかできませんでした。そこで行われたのが、手芸の講習会です。「ブックカバー講習会」は私が入学して初めて行われた講習会で、密になることを避けて行われた講習会になりました。そのため参加人数が制限されたり、友達と対面して作業できなかったりしました。本来、講習会は皆と協力して楽しみながらやるものだと思うのですが、今年はそうはいきません。しかし、そのような状況下でも学んだことは大きかったです。特に、私はもともと手芸・裁縫が苦手だったので、役員とし

て参加することになり、不安が大きかったです。しかし、初心者向けのブックカバー製作では、私にも簡単に作ることで、完成した時の達成感がとてもうれしかったのです。このように、講習会に参加することで、苦手なことにも挑戦できました。私のように最初は不安でも、自分のペースで落ち着いて作業することができると、全員が作り終えることができます。講習会で取り組む内容は簡単なものが多い上、先生が作り方を分かりやすく説明してくださるので、たくさんの方に参加してもらいたいです。

講習会で作ったブックカバーは自分で布を選んで、しおり用のひもをつけて、ボタンも付けてと様々な工夫ができました。完成したブックカバーに刺しゅうをする時間はなかったのですが、気が向いた頃に刺しゅうもしてみようと思っと思っています。



ガトーショコラ作り

一年六組 澄川 千夏

私は今回初めて料理講習会に参加しました。参加理由は、普段あまりお菓子作りをしないので、この機会に挑戦してみようと思ったからです。

ガトーショコラを作るとき、四人班になり、私は友達と、他のクラスの二人と同じ班になりました。初めて話したのですが、一緒に調理していく中で仲良くな

れたので良かったです。作っている最中、卵を卵黄と卵白に分ける作業があったのですが、卵黄を破いてしまいそうになってとても緊張しました。また、チョコレートを湯煎した後、バターを入れて溶かす工程で、なぜかチョコが固まってしまふなどいろいろなつまづいてしまうことがありました。しかし、班の皆と協力して何とか完成させることができましたので良かったです。

今回の料理講習会では、新型コロナウイルス感染症のため、その場で皆と食べることができなかつたので、私は家で母と一緒に食べました。食べてみると、外はサクサクなのに中はチョコでしっとりしていて、とてもおいしかったです。母もおいしいと言ってくれたので、また家でも作って食べさせてあげたいです。私はこの講習会で、自分たちで料理をする楽しさと、周りの人と協力する大切さを学びました。次の機会にも参加したいです。

ミサンガ作り

二年六組 野口 采夏

初めてミサンガを作ってみて、すごく大変だなと思ったけど、完成してとてもうれしかったです。最初はやり方も全くわからなくて、ちゃんとできるか心配だったけど、一つ一つ丁寧にしたら、初めてにしては良いなと思う作品ができました。今回、初めて家庭クラブ講習会に参加して、とても楽しかったので、また参加したいなと思います。いろいろな講習会に参加したいと思います。

一年二組 池谷 祐珠

初めて家庭クラブ講習会に参加しました。ミサンガを作れることも初めてで、器用ではない自分ができるのか不安でした。でも、とても楽しかったし、祖母

にあげようと決めていたので、祖母を思って作れてよかったです。裁縫は苦手ですが、ミサンガは作ることができたので、手作りすることに自信が持てました。糸をもらったので、次は母に作ってあげようと思います。次回の講習会にも参加したいです。



中央祭

プラバン・刺しゅうの講習会

二年一組 中川 優奈

今年度の中央祭では、プラバンと刺しゅうの講習会を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により例年と異なるかたちでの開催でしたが、参加者が来てくれるか心配でしたが、当日は多くの方に参加していただき、楽しい活動にすることができました。

プラバンは、専用のプラスチックのシートに絵などを描いて、それをオーブン

トースターで加熱して作ります。参加してくれた人は、自分の好きなキャラクターのストラップにしたり、名前を書いてネームプレートのようにしたりと個性あふれる作品を作っていました。また、デザインするだけでなく、オーブントースターで焼く時にプラバンの形状が変化するのを見ていて楽しいです。時間や温度を間違えると上手に作れないので、自宅などで作る際は注意が必要だと思いました。

刺しゅうは私が担当した時間には残念ながら参加者がいませんでしたが、家庭クラブ委員で見本を作ったときの様子を見ると、好きな色の布と糸を使って、思い思いに縫っていて、模様や縫い方その人のらしさが表れるように感じました。特別な道具が要らず手軽にできるので、今度は家でもやってみたいと思います。

家庭クラブ委員としての中央祭への参加は今年で終わりですが、良い活動になりました。今回参加できなかった人は来年ぜひ参加してみてください。良い思い出が作れると思います。私も参加したいと思います。



月	日	活 動 内 容
4	14 中旬	役員会 (延期) 家庭クラブガイダンス (延期)
5	11・12 28	役員会 家庭クラブ総会
6	1～5 上旬 10 15	家庭クラブ週間① 家庭クラブガイダンス 講習会①「ブックカバー作り」 中予支部研究協議会 (紙上開催)
7	3～6 22 31	ペーパーホルダーの洗濯・修繕① 松山聾学校との交流会 (本校) 四国ブロック高等学校家庭クラブ研究発表大会 (紙上開催)
8		ホームプロジェクト実施
9	2 17	運動会受付接待 (中止) 中央祭 (プラバン・刺しゅうの講習会)
10	13	乳児院の運動会の飾り作り
11	上旬 上旬～ 7	愛媛県ホームページコンクール応募 干支のマスケット製作の準備 三校交流会 (松山工業高校・役員)
12	1 中旬 24	講習会②「ガトーショコラ作り」 干支のマスケット・年賀状制作 老人ホーム「和光苑」訪問
1	下旬 20～31	新聞「つばきの」編集開始 家庭クラブ週間②
2	5 下旬 26～28	講習会③「ミサンガ作り」 新聞「つばきの」編集 ペーパーホルダーの洗濯・修繕②
3	19 19	新聞「つばきの」34号発行 テーブルマナー講習会 (中止)
年間の活動		朝清掃 (1クラス1週間・中止) 家庭クラブ委員会・役員会 書き損じハガキ・古切手・使用済みプリンタインカートリッジの回収
今年度は「乳児院訪問」「石井児童クラブ半日ボランティア」は中止 (計画なし) になりました。		

干支のマスケットと年賀状を手作りしてプレゼントすると聞いて、とても素敵なことだと思いました。私は手作りのものをプレゼントするのが好きなので、この活動がとても楽しみでした。私は年賀状を描きました。絵を描くのはあまり自信がなかったけど、普段より

一年九組 田中 結衣



干支のマスケット・年賀状制作

素敵なこ
とだと思
います。
これから
もこの活
動が続き
てほしい
と思います。



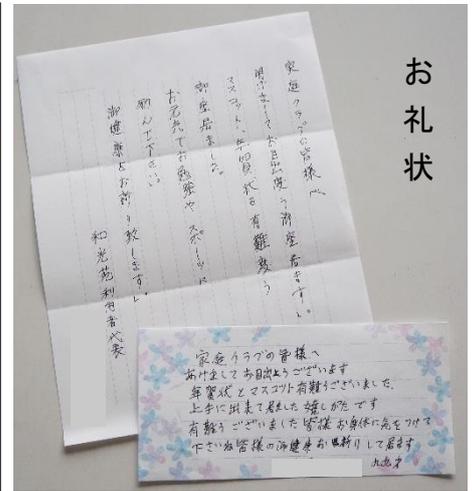
上手に描けたと思います。デザインを考えた時、牛を描く配置を考えたり、いろいろと試行錯誤する時間は、私にとって充実した時間でした。友達と描いた絵を見せ合うと、それぞれ個性が出ているなと感じました。干支のマスケットを作るのはとても大変そうでしたが、皆きれいに作っていて、「欲しい!」と思いました。作った年賀状とマスケットは「和光苑」という特別養護老人ホームに届けてくれました。去年もプレゼントして「皆さん喜んでいました」と和光苑の方から聞いていたので、今年も喜んでくださっているのかなと思っています。皆と何かを一つ一つ作り上げて誰かにプレゼントするのは、素敵なことだと思います。

飾りや髪型や目の形を相談しながら作っていました。それぞれのパーツを模造紙に張り付けていき、腕の向きを工夫したり、色とりどりの画用紙を使ったり、顔の

乳児院で行われる運動会で使用する飾りを家庭クラブ委員会で作りました。いくつかの班に分かれて、最初は配られた型紙の顔や体、手などのパーツを切り抜きました。次に切り抜いた型紙を元に画用紙を切りました。それから、男の子と女の子のどちらを作るかを班員と決めて、髪型や目の形を相談しながら作っていました。それぞれのパーツを模造紙に張り付けていき、腕の向きを工夫したり、色とりどりの画用紙を使ったり、顔の

二年六組 浅野 未唯

乳児院の運動会の飾り作り



お礼状

今回の活動を通して、直接人と関わることも、間接的に関わる方法はたくさんあるということを知ることができたので、今できるボランティア活動に積極的に参加したいと思います。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で乳児院訪問などの幼い子どもたちと関わる活動ができなくなりました。運動会の飾り作りで少しだけ関わることはできたのでうれしかったです。また、去年に引き続き飾り作りをしたので、去年より上手に作る事ができました。様々なポーズや表情のカラフルでかわいい飾りを作ることができました。

